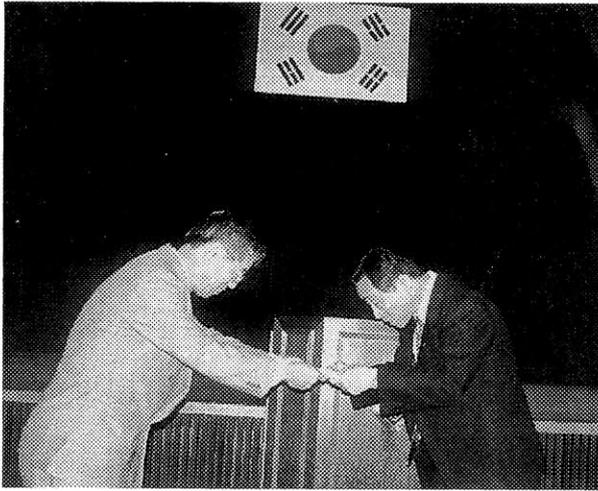


「歴史を共有したい」韓国・独立記念館に寄付

島根の小松電機産業

小松電機産業（島根県八束郡）の小松昭夫社長（53）は21日、韓国の独立記念館に100万円を贈呈した。同社は95年から毎年、社員研修で同記念館を訪れている。「歴史を共有し、韓日両国の発展の礎になりたい」と、小松社長は動機を語った。（東京本社・李相兌）



朴維徹・独立記念館館長（右）に100万円を手渡す小松昭夫社長

社員研修で毎年訪韓 韓日親善にと100万円

小松社長が韓国とかかわるようになったのは、同社の主力商品である「門番」（センサーで自動開閉し、空調・省エネ効果を高めるシャッター）が、韓国でも販売されるようになった90年からだ。

当時、日本国内で人気の高まっていた「門番」に対し、韓国での販売打診が大手の韓国企業などから来たが、小松社長は同じベンチャー企業という親近感で、



小松昭夫社長

東宇技研（曹秀煥社長）と業務提携を結んだ。その曹社長に独立記念館を案内されたことが、転機になった。

「独立記念館を見て、この過去を直視し、どう未来に結び付けていくか真剣に考えた」（小松社長）結果、まず社員に見せる必要があると考え、95年に17人、96年に19人の韓国研修

視察団を派遣した。研修では「門番」を使用している三星電子水原工場を見学した後、独立記念館を訪れ、帰国後は社員に報告書をまとめさせるなど、韓日現代史の知識を、社内全体で共有するように務めている。

第3回目の研修視察団は、今月21日から24日まで行った。社員19人のほかに、取引先の企業関係者9人を含む28人で独立記念館を訪れたが、「日韓両国民の歴史認識が深まり、新たな人類の未来の活動の輪が広が

ることを願って」100万円を、独立記念館に寄贈した。独立記念館側は当初、寄贈を辞退したが、「韓日親善に役立ててほしいという小松社長の熱意を尊重して受け取る」（朴維徹館長）ことに決定した。日本人の献金は、これが初めてである。

現在、小松社長は「人の縁と感謝・戦争の歴史記念館」建設構想を立てている。

出雲に戦争の歴史を展示する記念館と研究所を作ろうというもので、その展示物に独立記念館から協力を受けたと、朴館長らに相談、独立記念館の写真の一

部復写と、展示物の一部提供で内諾を得ている。「出雲の地から平和と共生社会の声を、世界に向けて発信したい」と、小松社長は抱負を語る。